

2010年12月7日

宮城県知事
村井 嘉浩 様

宮城県生活協同組合連合会
会長理事 齋藤 昭子

灯油に関する要請書

貴職におかれましては、益々ご清栄のこととお慶びを申し上げます。平素は宮城県生活協同組合連合会の諸活動にご高配賜り誠に有難うございます。

さて、宮城県に住む私たちにとって暖房は不可欠であり、「灯油」はその主力エネルギーとして欠かすことができない生活必需品です。灯油が適正な価格で安定的に供給されることが私たちの願いです。

現在 WTI 原油は、1 バレル 81～87 ドルの高値で推移しており、さらに高騰していく勢いです。08 年、09 年と私たちを苦しめたような「投機マネー」流入による憂慮すべき状況となっています。しかし一方で、円相場は、15 年半ぶりの高値を更新し続け、10 月の月間平均は 1 ドル 82 円台になり、戦後の最高値となりました。円高が進み始めた 5 月以降から見ると実に 10 円を超える円高です。

こうした情勢の中では、原油は輸入した円建てでの価格（C I F＝運賃・保険料込み到着値）で考えるべきで、C I F 価格は昨年同等かむしろ下がっています。しかし、灯油 1 缶 18 ㍓の配達価格は、昨年 1200 円台だったものが、今年は 1,400 円台の価格となっており、今後さらに上がる見込みです。C I F 価格が下落基調の中、円高差益還元がないばかりか、元売会社からの仕切りは上がっております。ガソリン・軽油・灯油の中で、灯油の仕切りが最も高い状態であることも、寒冷地に住むものや生活弱者などの暮らしを圧迫しています。

灯油在庫についても心配です。11 月 20 日時点の在庫は 264 万 k1 と、前年より 49 万 k1 減、昨年の 313 万 k1 の 8 割程度という状態です。寒気が強まり、需要も本格的になってきたこの時期に、この水準の在庫で本当に大丈夫なのでしょうか。今年の 4 月には、元売会社からの量をテコにした強気の仕切り価格提示がありました。

また貧困と格差が広がり、ことに東北は米価の暴落などで一層きびしい冬を迎えており「福祉灯油」などの弱者救済策がかかせません。

宮城県生協連は今年の冬の灯油価格を 9 月の県内灯油市況を下回る暫定価格を設定することによって、灯油の安定供給と価格の引き下げに努力し、組合員の家計負担を少しでも軽くすることに貢献してまいります。

つきましては、県民の生活を守るために、県が県民の立場にたって、この冬場を安心して暮らせる灯油の数量確保と価格の安定を最優先に行政責任を果たすよう、以下のことを要請します。

記

1. 厳冬や原油価格の高騰などの不測の事態発生は、石油製品市況を高騰に追いやることも想定されます。県民の立場にたって「安心できる灯油の量の確保と価格の安定を最優先」に不測の事態に敏速に対応できる万全の体制で臨んで下さい。
2. 灯油価格の値上がりが、くらしと地域経済をますます厳しくし、家計のやりくりも大変にします。とりわけ、高齢者・所得の低い層など、生活弱者にとっては死活問題です。県が生活弱者支援として、生活困窮者に対する福祉灯油等の購入費の助成を実施して下さい。
3. 介護や福祉の事業を行なう社会福祉法人や NPO 法人は、灯油やガソリンの高騰で運営経費が増大しているため、県として助成の拡大を国に働きかけて下さい。
4. 原油価格の高騰などに便乗した値上げが行われないよう、価格の動向を調査・監視し県民に対して提供して下さい。

以上